

1 小学校外国語「書くこと」の目標と評価について

令和2年度から小学校において教科としての外国語が始まり、評価が必要となりました。今回は、小学校外国語における「書くこと」について確認します。

◆「書くこと」の目標◆ 学習指導要領には、以下のように記されています。

ア 大文字、小文字を活字体で書くことができるようにする。また、語順を意識しながら音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を書き写すことができるようにする。

イ 自分のことや身近で簡単な事柄について、例文を参考に、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を用いて書くことができるようにする。

児童には、参考とするものが何もない状況で書くことが求められているのではなく、十分に聞いたり、やり取りしたりして慣れ親しんだ語句や表現を書き写したり、例文を参考にして、その一部や一文を自分が表現したいことに置き換えて書いたりすることが求められています。

◆「書くこと」の学習評価（例 第6学年）◆

【単元の目標】（「書くこと」にかかわること）

参考資料：『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料 小学校 外国語・外国語活動

自分たちが住む地域について、相手に伝わるように、伝えようとする内容を整理した上で、自分の考えや気持ちなどを発表したり、書かれた例文を参考に音声で十分に慣れ親しんだ語句や表現を用いて書いたりすることができる。

【評価場面】前時までに話したことや書きためてきたワークシート、テキストのミニポスターを参考にしながら、ワークシート①及びオリジナルミニポスターを作成する。

This is my town!
We don't have a library.
I want a library.
We have a big park.
It's good. I like jogging.
Sakura is nice.

(a) 十分満足できる (b) おおむね満足できる (c) 努力を要する

＜児童1のワークシート①＞自分たちの住む地域について、そのよさや願い、自分の考えや気持ちなどを表す語句や表現を、すべて正しく書いているので、「知識・技能」を(a)と判断。また、相手に伝わるように、自分の考えや気持ちを、単元で学習した語や巻末のWORD LISTを調べて語を選んだり、文字と文字、語と語の間隔に適切なスペースをおいて、適切に書いたりしていることから、「思考・判断・表現」においても(a)と判断。

This is my town!
We don't have a zoo.
I want a zoo.
We have a beach.
Nice!!
Sakura is nice.

＜児童2のワークシート①＞自分たちの住む地域について、そのよさや願いなど、自分の考えや気持ちなどを書けているが、語句や表現を一部正しく書けていないので、「知識・技能」を(b)と判断。また、語と語の間隔を空けないで書くなど、相手によく分かってもらえるようにという観点からは、適切でない部分も見られるので、「思考・判断・表現」についても(b)と判断。

This is my town!
We don't have a zoo.
I want a zoo.
We have a park.
Sakura is nice.

＜児童3のワークシート①＞自分たちの住む地域について、そのよさや願いなど、自分の考えや気持ちを表す語句や表現を正しく書いていなかったり、相手によく分かってもらえるようにという観点からは、単語や語と語の間隔を適切にとって書いていなかったりすることから、「知識・技能」「思考・判断・表現」において(c)と判断。

「努力を要する」児童に対しては、(b)まで達成するように、指導者は、例えば、対象児童が書いたりする際には、参考とする例文を児童が書くシートのすぐ上に置かせ、語と語の間隔を意識しながら児童が書けるようにするなど、評価結果から指導方法を見直し、継続した指導や支援を行うことが大切です。

Mie English News vol.15(6月号)で紹介した、小中連携研究・開発チームの第2回チーム会議を9月6日に開催しました。この会議で交流した各地域の実践を紹介します。



アドバイザー：皇學館大学 川村准教授

【朝日町】

- ・夏休みに小・中学校それぞれの1学期の取組を共有した。2学期は互いの授業を参観する。
- ・今後はALTの活用機会を増やし、小・中学校のつながりを意識したSmall Talkにもそれぞれで取り組んでいく。

【鈴鹿市】

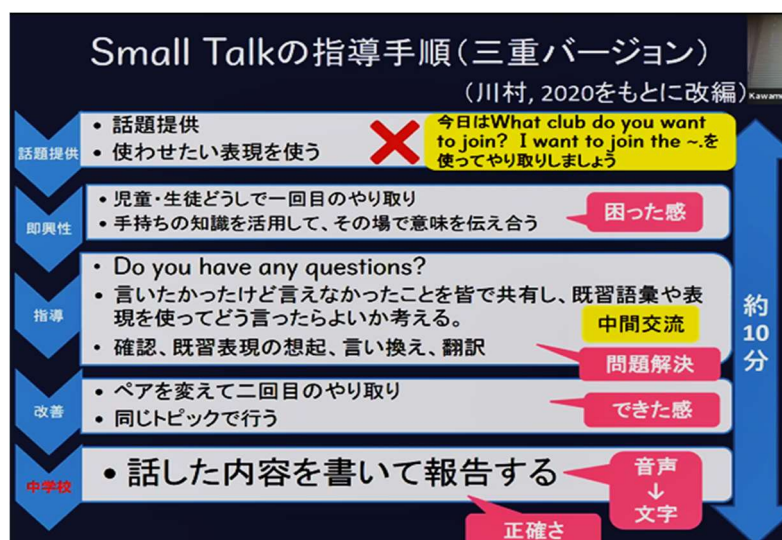
- ・1学期は小学校の英語の授業に、中学校の英語担当教員が週1時間、指導に加わり、授業を進めた。2学期は、リモートの形態でも実施する。小・中学校共通して、「英語を使うことを楽しむ」ことを目標としている。
- ・「書くこと」やSmall Talkで小中接続を意識し、小・中学校それぞれで取組を進めている。

【鳥羽市】

- ・研究授業を小・中の英語担当教員で参観し、事後協議を行った。
- ・Small Talkを小・中学校で取り組んでいる。

【川村先生コメント】

- ・小・中学校それぞれで、単元の最終目標（＝B評価：全員に言えてほしいこと）を明確にし、具体的な英文に落とし込んだもの（＝最終形）をもっておくことが大切。
- ・最終形を中心にとすると、同じトピックや言語材料での小中連携が可能になる。（例えば、「過去形」において小・中学校それぞれでどの程度の学習を求めているのか比較することができる等）
- ・B評価の基準を児童生徒に事前に示しておく、児童生徒自身が見通しをもって表現内容の準備や改善ができる。
- ・「話すこと（発表）」の活動の後に、発表原稿を児童生徒が互いに読み合い、小学校では日本語で、中学校では英語で感想を書かせるとよい。そうすることによって「読むこと」、「書くこと」に意味が出てくる。
- ・Small Talkでは、「対話を続けるための基本的な表現の定着（Reaction, Repeat, Echoing等）」を、発達段階に応じて行うことで小中連携を図ることができる。
- ・Small Talkは、単元目標と絡めて取り組むと相乗効果生まれる。
- ・児童生徒は、Small Talkの活動が初めはうまくできないこともあるが、継続的に進めていくことで、できることが増え達成感が得られる。



【お知らせ】県教育委員会では、パフォーマンステスト等の実践報告をもとに、その内容や評価方法について学ぶ「【K091401】【集合】小学校英語－指導と評価に係る研修2（実践）－」及び「【K091402】【集合】中学校英語－指導と評価に係る研修2（実践）－」や公開授業研修「英語授業づくり研修2」を実施します。現在、申込を受付中です。ぜひ、御参加ください。

申込方法：県総合教育センターHP→1 研修講座→06 科等研修→(K09)英語

